

ネットワークボード

今回は『東日本大震災 伝えなければならない100の物語』のご紹介です。この本では、地震発生から今日までを、さまざまな人の視点で、時系列に物語がつづられ、忘れてはならないあの日とその後を、1巻10話で、全100話の壮大な物語として伝えています。その第6巻、絆(きずな)では現在も活動を続ける、恵比寿にある「癒しのプロ集団 チーム恵比寿」の被災地での活躍や活動における葛藤の日々が記載されています。本誌3月号(前回発行分)「すけっちぶっく」でも副代表の宮崎征紀さんからメッセージを寄せて頂きました。ぜひ、この機会に合わせてご覧ください。

東日本大震災

伝えなければならない100の物語

～全10巻～

- 第1巻 その日 第2巻 明けない夜はない
 第3巻 生きることを、生きるために
 第4巻 助け合うこと 第5巻 放射能との格闘
 第6巻 絆(きずな) 第7巻 希望をつむぐ
 第8巻 広がりゆく支援の輪
 第9巻 再生と復興に向かって
 第10巻 未来へ

(本書の売り上げの一部は復興支援に充てられます)

◆お近くの書店、Amazon.co.jpでも購入できます◆

発行 学研教育出版

定価 1巻 1680円(税込)

こんにちは理事長です

新年度を迎え、会員の皆様には引き続きの御支援、よろしくお願い申し上げます。

ぱれっとのセクションも組織変革を経てトップが交代するなど新体制に移行しました。おかし屋ぱれっとも第2工房を設立し、障害の重い通所員を受け入れる等、いろいろな働き方が選択できる空間を整えました。スタートしたばかりですのでまだまだ手探りの状態ですが、アートをテーマとした新たな仕事の開発に取り組んでいます。

また5月の総会に向け、中期計画(3カ年)策定の準備を進めてきております。ボランティアや理事・親の会・スタッフを含めたぱれっと全体で1年に渡り勉強会を重ね、具体的な目標が立てられました。この作業には、ぱれっとにかかわる全ての人が、自ら考え行動しぱれっとの一員としての誇りが感じられる組織を作り上げる思いが込められています。共に目標を考えることで帰属意識を高め各々が責任を持ち主体的に活動に参加をしてもらいます。行政サイドも緊縮財政で組織運営も厳しい状況は変わりません。向こう3年間の中で思い切った政策を打ち出さない限り現状打開は難しいと考えております。

特定非営利活動法人ぱれっと 理事長 **相馬宏昭**